

はまぎん こども宇宙科学館（横浜こども科学館） 企画展「きて、みて、つくって！海のわくわく探検隊！」

開催期間：2025年4月26日（土）～2025年5月6日（火）



【企画展の内容・目的】

- 来館者に海を身近に感じてもらい、我々の生活には海はなくてはならない存在であることを改めて実感してもらうことを目的とした。また、海に足を運びたくなるように感じてもらうことをさらなる目的とし、様々なコンテンツを用意して、遊びや楽しむことから海について考えるきっかけを提供し、海に行きたくなるような場づくりをすることを目指した。
- 海や海の生き物をテーマとした様々な工作やプログラミングの教室を開催することで、異なる観点から、海への興味を持っていない子どもにもアプローチすることができる考えた。また、工作物は持ち帰れることから、家で体験を振り返り、改めて海について考えてもらうきっかけとすることを目指した。

1. 企画展示の内容

■開催期間：2025年4月26日（土）～2025年5月6日（火）

■開催場所：横浜こども科学館 B2 特別展示室

■入場者数：15,674人



横浜こども科学館 外観



企画展会場 入口



世界最大級のイカで深海に生息しているダイオウイカの標本の実物大パネルを展示し、その触腕部分に模型をつけて実際に触れられる展示とした。また、あわせてダイオウイカの目玉や吸盤の骨の模型も展示し、触れるものとした。さらに、多種多様で様々な大きさの貝殻、サンゴ、ウニの棘、ヒトデ骨格の実物を多数展示し、自由に触れるものとした。

これらの生き物について、写真や映像、あるいは標本を見たことがあるという来館者は多いが、実際に実物や実物大のものを手に取り触る機会は少なかったという来館者もいらっしゃり、色や形、大きさ等の見た目や感触を楽しんでもらっていた。実際に触れることにより、興味を持つきっかけとなっていたことが伺えた。

また、貝殻やヒトデ等は神奈川県海にもいる種類も多数展示しており、来館者にそのことを伝えることにより、様々な生き物を身近に感じてもらい、実際に海に足を運び訪れる機会をつくるきっかけにもなったと思われる。



JAMSTEC（国立研究開発法人海洋研究開発機構）より借用した深海生物標本（ユノハナガニ、チューブワーム）、有人潜水調査船「しんかい6500」で使われていたメタクリル樹脂製の覗き窓の展示を行った。

実際に深海にて採集された生物の標本を見てその形態や色、大きさ等を観察することにより、深海生物の興味深さ、陸上生物や浅い海に生息する生物との違いや共通点等を感じてもらうことができた。また、実際に調査船に使われていた覗き窓の展示により、深海調査時に調査船からどのように深海を見ているのかを想像しながら、覗き窓を通すとどのように物が見えるのかを実感してもらうことができた。

身近な神奈川県の手もすぐに深海へとつながっていることを知っていただきながら、簡単には行くことのできない深海について想像してもらうきっかけとなったと思われる。



JAMSTEC（国立研究開発法人海洋研究開発機構）より借用したチムニー（熱水噴出孔）の模型（写真左）を展示し、深海調査時の映像を放映した。また、有人潜水調査船「しんかい6500」の耐压殻の大きさをイメージできるように内部の面積や内径を再現したカーペットやリング（写真右）を展示した。さらに、「しんかい6500」の覗き窓と同じ直径の穴を覗くと深海調査時の映像が見られる箱を展示した。

チムニーの模型や深海の映像を見ることで、深海にどのような生物がいて深海底がどのようなになっているのか想像し、また様々な深海生物の様子を見てもらうことができた。

また、「しんかい6500」での調査時、乗務員がどのように過ごしてどのように深海を観察しているのかを体験しながら味わってもらうことができた。

疑似的な体験を通して、深海や深海調査について想像し、興味・関心を引き出す機会を提供することができた。



来館者が「海の生き物」をテーマに自由に描き、作品を壁のパネルに貼っていくことのできるコーナーを設置した。好きな生き物を描いたり、想像上の生き物を描いたり、自由を楽しんでもらうことができた。

展示していたパネルや深海生物標本、映像を参考にしていた作品も見られ、展示が来館者の印象に残っていたことが伺えた。また来館者の好きな生き物や想像した生き物を描くにあたって、各々海について考えて思いを馳せていただけていた様子であった。

企画展期間を通してたくさんの作品を描いていただけたため、多くの来館者に海や海の生き物をより身近に感じていただくことのきっかけとなったと思われる。

【来館者の声】

○図鑑では感じとれない、実際の大きさを見る事ができて、こんな大きな生きものが沢山すんでいる海は改めて壮大だなと思いました。子供達が大きくなってもきれいな海が残っていてほしいです。

○貝の形、大きさなどを学べた。普段触ることのできないヒトデやサンゴの感触を楽しむことができた。

○ゴミ、温暖化等をあらためて考え、海を守りたいと思った。

○海って知らないことがたくさんあるなぁと思いました。

○神秘的で奥が深いと思いました。

2. 関連事業の内容

■あそべる海の生き物工作

【開催日時】2025年4月26日（土）～5月6日（火）10:00～16:30

【開催場所】横浜こども科学館 B2 宇宙工作室

【参加者数】2,618人

【実施内容・目的】

- 様々な海の生き物をモチーフにして、動きのある簡単な紙の工作と缶バッジ作りを楽しむことができる教室を実施した。
- 海の生き物をモチーフにして工作し、それぞれの生き物の名前や簡単な生態を知ってもらうことを目標とした。



開催場所の全景の様子



会場入口の様子



身近な生き物や誰もが知っているような生き物をモチーフとし、完成後に動かして遊べる工作を提供した。工作自体を楽しみ、また完成した工作物で遊んでもらうことに加え、参加者が選んで作った生き物について、種名や簡単な生態を知ってもらうことができた。

生き物を知る第一歩は、生物の名前を知ることでもあるため、工作し生き物の名前を知ることによって海への興味を深めるきっかけとしてもらえたと思う。

また、工作に選ばなかった他の生物についても、種名や生態を記載した一覧をお持ち帰りいただいたことから、工作の完成物とともに振り返りと新たな生物への関心を引き出すきっかけとすることができた。

【来館者の声】

- 子供が工作が大好きなので、工作を通じて海の生き物を大切にしようと思ってくれていました。
- 海には私の知らないたくさんの生き物がいることを知れました。
- 見たことのある生き物の特徴など学べた。海で実際に夏に見に行こうと思った。
- 海の生き物について不思議を学べた。

■マリンスノードーム

【開催日時】2025年4月26日（土）～5月6日（火）10:00～16:30

【開催場所】横浜こども科学館 1F 工房

【参加者数】1,449人

【実施内容・目的】

- ビンの中に貝殻等の材料やマリンスノーをイメージして蓄光砂を入れ、深い海の中をモチーフにしたスノードームを作った。
- 持ち帰って家の中に飾ることで、体験を振り返り、改めて海について知りたい、詳しくなりたい、と感じてもらうことを目標とした。
- そのための一助となれる存在として科学館を位置づけてもらうことを目標とした。



開催場所の全景の様子



工作の説明の様子



スノードームに入れる素材として貝殻や小さいヒトデといった、実際の生物の素材を利用し、複数あるものの中から参加者に好きなものを選び取っていただくことで、海の生き物への興味を引き出すことを目標とした。また、マリンスノーをイメージして蓄光砂を入れたことから、「マリンスノー」とはどのようなものなのか、深海とはどのような環境の場所なのかということを知ってもらうきっかけを提供できた。

解説書とともに参加者が作った作品をお持ち帰りいただいたことから、科学館での体験を自宅でも振り返ることができ、自宅での普段の生活の中でも海について考えたり想像したりする機会にさせていただくことができたと考えます。

【来館者の声】

- 海をキレイにしていきたいと改めて思いました。
- もっと沢山の海の生物を知りたくなった。
- 海は大切だということ、いろいろな生き物の命がつながっていることを感じました。
- かいがらが、海にあるときと色が違うことに気がつきました。

■オーシャンボトルをつくろう

【開催日時】2025年4月28日（月）～5月6日（火）
10:15～10:45、11:15～11:45、13:00～13:30、
14:00～14:30、15:00～15:30

【開催場所】横浜こども科学館 2F 実験室

【参加者数】301人

【実施内容・目的】

- ボトルに海の生き物のモチーフと消臭ビーズを入れ、オリジナルの小さな海のようなボトルを作った。
- 持ち帰って家の中に飾ることで、体験を振り返り、改めて海について知りたい、詳しくなりたい、と感じてもらうことを目標とした。
- そのための一助となれる存在として科学館を位置づけてもらうことを目標とした。



開催場所の全景の様子



工作の説明の様子



海の生き物と海草のモチーフを入れてオリジナルの小さな海のようなボトルを作製することで、海の生き物への興味を引き出すことを目標とした。モチーフとともに消臭ビーズをボトルに入れ、光の屈折を利用して水を入れると消臭ビーズが見えなくなる様子も楽しめる作品であるため、光の屈折により海や水の中のものの見え方が空気中とは異なることについても学んでいた。

解説書とともに参加者が作った作品をお持ち帰りいただいたことから、科学館での体験を自宅でも振り返ることができ、自宅での普段の生活の中でも海について考えたり想像したりする機会にさせていただくことができたと思う。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

【来館者の声】

- いきものとかいろんないのせいぶつが大切だなとおもいました。
- ぼい捨てをなくしてきれいにしたい。
- ちゃんと生き物を大切にしようと思った。
- いろいろな生きものがいるんだなとかんじた。

■親子で体験！WeDo2.0

【開催日時】2025年4月26日（土）、27日（日）、29日（火）、
5月3日（土）～5月6日（火）

10:00～11:00、11:30～12:30、14:00～15:00

【開催場所】横浜こども科学館 1F 教室

【参加者数】168人

【実施内容・目的】

- レゴで作ったロボットをプログラミングして動かす教室を実施した。釣りなどの海や生き物に関連した動きをプログラミングする内容とした。
- 釣り竿をレゴで作り、自ら動かすことで記憶に定着しやすくすることを目的とした。
- そのための一助となれる存在として科学館を位置づけてもらうことを目標とした。



開催場所の全景の様子



教室の説明の様子



レゴブロックで作ったロボットをプログラミングにより動かす教室を実施した。今回は、レゴブロックで釣り竿を作り、プログラミングにより釣り竿を上手に動かすことで、釣り堀コーナーにいる魚たちを釣り上げることにチャレンジしていただいた。

釣り上げた魚のイラストには、種名や簡単な生態が記載しており、台紙に貼ってお持ち帰りいただいた。科学館での体験を自宅でも振り返ることができ、自宅での普段の生活の中でも海について考えたり想像したりする機会にさせていただくことができたと思う。

また、プログラミングという手法を用いて、直接的に海に興味を持っていなかった子どもにもアプローチすることができたと思われる。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等ではできません。

【来館者の声】

- きっかけは海の魚釣り、そこからプログラミングを身近に感じる事が出来ました。
- 色々な魚がつれて、楽しかったです。
- いろんなことを知れて海は大切だと知れた。

■仲良く泳ぐイルカのふりこを作ろう

【開催日時】2025年4月26日(土),27日(日),
5月3日(土),4日(日)
10:15~11:00、11:30~12:15、13:30~14:15、
14:45~15:30

【開催場所】横浜こども科学館 1F 会議室

【参加者数】160人

【実施内容・目的】

- 一頭のイルカが動くともう一頭のイルカも動き出す不思議なふりこ「共振ふりこ」を作る教室を実施した。
- 海の生き物をモチーフにすることで、工作の過程や完成品で遊ぶことにより記憶に定着しやすくすることを目的とした。
- そのための一助となれる存在として科学館を位置づけてもらうことを目標とした。



開催場所の全景の様子



工作の説明の様子



イルカの形に切り出した MDF 板を用いて、共振ふりこを作る教室を実施した。ふりこという海とは直接はイメージがつかないコンテンツでも、モチーフを海の生き物にし、解説書とともに完成品をお持ち帰りいただくことで、科学館での体験を自宅でも振り返ることができ、自宅での普段の生活の中でも海について考えたり想像したりする機会にさせていただくことができたと思う。

また、海そのものではなく、異なる観点からの工作を通して、直接的に海に興味を持っていなかった子どもにもアプローチすることができたと思われる。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等ではできません。

【来館者の声】

- 海を大切にしようと思った。
- 海の生き物にふれて、楽しい！かわいい！と親しみが湧いたようでした。
- まだ知らない世界があると思いました。
- ほんもののいるかをみたい

【事業全体のまとめ】

本サポート事業を活用したことにより、連携先からの展示物の借用品や、当館にて作製する展示物を増やすことができ、参加者の海の学びの機会を増やすことができた。

関連事業においても、工作のモチーフとする生物の種類を増やすことができ、参加者が複数種の中から生き物を選ぶことによって興味を引き出すことができた。また、工作で選ぶことのできる生物の全種について、種名（学名）と簡単な生態を一覧にして記載した資料を別途作成することができ、参加者にお持ち帰りいただくことができた。

関連事業のプログラミングにおいても、プログラムによって釣り上げた魚のイラストを持ち帰るための台紙を作成することができ、そこに種名と簡単な生態を記載してお持ち帰りいただけた。

常設展示には直接海に関連する展示がない当館においても、参加者が海を感じ海について考えるきっかけとする企画展を開催することができ、海について楽しみながら学んでいただく機会を提供することができた。

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. JAMSTEC (国立研究開発法人海洋研究開発機構)	展示物・生物標本の借用、映像・パネルの提供
2. 観音崎自然博物館	標本の写真撮影協力、生態情報提供

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. はまぎん こども宇宙科学館公式 Web サイト	「きて、みて、つくって！海のわくわく探検隊！」 2025年4月12日公開
2. 子どもとお出かけ情報サイト 「いこーよ」	「きて、みて、つくって！海のわくわく探検隊！」 2025年4月17日～5月6日公開
3. はまぎん こども宇宙科学館 公式 X	2025年5月1日投稿

以上